

令和2年8月28日（金曜日）

自民党の足立敏之参院議員は、2020年7月豪雨に見舞われた熊本県人吉市など球磨川流域の被災現場を24日視察した。熊本県内の被災地視察は4回目。建設中止となっている川辺川ダム（五木村）の建設予定地を訪れた足立氏は、流域市町村で多数の死者が出たことに触れ「本工事が着手直前にストップしている。このダムが完成していたらと残念に思う」と無念さをにじませた。

足立氏は国土交通省時代、川辺川ダムを前提に河川整備基本方針の策定などに携わってきた経験を持つ。民主党政権時にダム本体工事が中止となったが、ダムサイトでは仮排水路トンネルや骨材製造設備の基礎が整備されており、家屋は99%が移転済みで、付け替え道路も90%完成している。

今回の視察で災害発生後初めてダムサイトを訪ねた足立氏は、五木村の和田拓也前村長と意見を交わし「下流の安全のため村民は家やお墓を高

足立議員、球磨川流域を視察

20年7月豪雨



台に移したのにダムが建設されない。この民意を重く受け止めなければいけない」との見解を示した。

球磨川流域12市町村は川辺川ダムの建設促進を20日に決議している。10年以上にわたる「ダムによらない治水」の検討は結論さえも見いだせない空白の時間だったと指摘。

川辺川ダム完成していたら……

川辺川ダム建設予定地。仮排水路トンネルなどは完成している

県、国に対してダム建設を含めた洪水の検証を速やかに実施し、早急に結論を出すよう要請。この結果を踏まえ、目標時期を定め川辺川ダム建設を含む抜本的な治水対策を講じるべきだとした。



川辺川ダム建設予定地を視察する足立氏（手前）

25日には九州地方整備局、熊本県、流域12市町村で構成する「令和2年7月球磨川豪雨検証委員会」の初会合が開かれ、「川辺川ダムがあった場合、十分貯留可能な洪水だった」とするデータが提示された。

足立氏は「流域の自治体がダム建設の促進にかじを切った。川辺川ダムを前提とした河川整備基本方針の策定に携わった者として、全うできていないことに責任を感じている。ダムを一日も早く実現し、激甚化する水害に備える必要がある」と訴えた。

今回の視察では、人吉市から八代市まで国道219号や県道で球磨川沿いを移動した。落橋した西瀬橋（人吉市）に応急架設橋を緊急設置する仮復旧現場や、道路延長約100mにわたり国が権限代行で進めている復旧現場など順次回った。